

代表質問 田口一登議員 (2020年3月4日)

敬老パスの利用回数制限は撤回を



田口一登議員は3月4日の代表質問で、敬老パスや気候変動などの問題で市長の姿勢を追及しました。

敬老パス

「金はある(河村市長)」なら 利用回数制限の必要なし

敬老パスは、私鉄への利用拡大と同時に、利用回数「年間730回まで」と上限を設けることが提案されました。田口議員は、「利用回数制限を設けなくても、敬老パス事業への税金投入額は過去最大を超えない。河村市長は所信表明で、『金はある。財政危機はウソだ』とはっきり言われた。金があるのなら、利用回数制限を設ける必要はないではないか」と追及。市長は「親子連れはお金を払って乗るのに、高齢者はタダかと、若干疑問に感じる」と答弁しました。

民営バスへの利用拡大も検討に着手

田口議員は利用回数制限の撤回とともに、名鉄バスなどへの利用拡大も要求。健康福祉局長は「民間路線バスへの拡大検討に着手したい」と答弁しました。

加齢性難聴

補聴器購入費に 補助などの支援を

加齢性難聴について、国の研究機関の調査では65歳以上の高齢者のおよそ半数に難聴があると推計されています。難聴で人との会話や人と会う機会が減り、引きこもりやすくなり、認知症との関連も指摘されています。難聴は補聴器で改善できます。しかし、難聴の人の補聴器の所有率は、日本は欧米諸国の半分以下。その最大の要因は価格が高いからです(片耳で3万円~20万円以上)。田口議員は、補聴器購入費に補助などの支援を提案。河村市長は「因果関係がわからないので勉強させて」と答えました。

新型肺炎

国保の資格証世帯に 短期保険証発行を検討

新型コロナウイルス感染症に関連して国民健康保険の資格証明書の取扱いについて質問しました。

国保料を支払えず資格証明書を交付された人は医療費の全額を自己負担しなければならず、受診を控えれば、重症化の懸念や、周囲への感染を広げる恐れがあります。田口議員は、「受診が抑制されることのないよう、資格証明書交付世帯にたいして短期保険証を発行するべきではないか」と質問。健康福祉局長は「厚労省の通知で、資格証明書で帰国者・接触者外来に受診しても、被保険者証での受診とみなすことになり、相談センターへの相談時に周知するよう対応した。資格証明書交付世帯対

する短期保険証の発行については、新型コロナウイルスの現在の状況などを踏まえて検討する」と答弁しました。

学校給食費

値上げ分に公費助成を

4月から、小学校給食と中学校スクールランチが値上げされます。子どもたちにとって、より楽しく豊かな給食にするためには、食材費を引き上げることは避けられません。しかし、給食費の大幅な値上げは、子育て世帯の家計に大きな負担増をもたらします。

田口議員は、「県下では17自治体が給食費に助成している。『値上げ分は市が公費で負担』、『新学期が始まった4月分は無償』など、何らかの形で助成して給食費の軽減を」と求めました。市長は、「タダだと金持ち優遇になる。必要な負担を」と公費助成に背を向けました。

県下自治体の給食費独自補助

岡崎市	4月分は無償化。2014年の消費増税分3%を補助。	みよし市	2014年の消費増税分3%を補助
津島市	1食15円を補助	あま市	1食10円を補助
豊田市	平均1食15円を補助	長久手市	1食20円を補助。地産地消推進負担1円を補助
安城市	第3子以降を無償化	東郷町	2019年の値上げ分1食20円を補助
東海市	2014年の消費増税分3%を補助	大口町	半額補助
岩倉市	第3子以降を無償化	大治町	月200円を補助
豊明市	材料費の10%を補助	蟹江町	1食30円を補助
日進市	地産地消につき1食3円を補助	飛島村	月600円を補助
愛西市	1食10円を補助		

気候変動

温室効果ガス排出「実質ゼロ」を —河村市長は後ろ向き—

気候変動の抑制に向けた地球温暖化対策について田口議員は、河村市長にたいして「2050年までに温室効果ガス排出量『実質ゼロ』を表明し、『気候非常事態宣言』を行おうではないか」と質問しました。

河村市長は「地球温暖化問題は原発推進のために出てきた。ええのか、共産党」と答弁。田口議員は、「市長は『脱原発』を標榜しているが、脱炭素の立場にも立たなければ、再生可能エネルギーへの抜本的転換は図れず、原発もなくせない」と反論しました。

河村市長は、自民、公明の代表質問にたいしても、温室効果ガスが地球温暖化の主要な原因になっていることに懐疑的な答弁を繰り返しました。

田口議員は「世界中の科学者の知見であるIPCC報告書を受け止めて議論すべきだ」と諫めました。